

## 17 ハリマムシオイ

(ムシオイガイ科)

兵庫県ランク:A

*Chamalycaeus harimensis*

環境省ランク:指定なし

### 種の概要

兵庫県南東部、四国中・北部、中国地方、東海地方のごく一部に分布する。低山地から山地にかけての自然林の林床に生息する。殻径3.6～4mmで、殻口近くのくびれは比較的収縮し、これより殻口側の螺管の成長脈は粗く現れる。口唇は二重唇となる。四国産でカガワムシオイと仮称されていたものは本種と考えられる(矢野・大原,2011)。形態的によく似たピルスブリムシオイは、殻径3mm程度で、くびれ部分の収縮は弱く、これより殻口側の螺管の成長脈は細かい。

### 主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
				○		○	○

### 県内分布

神戸市、宝塚市

### 県内における生息状況及びその他特記事項

CからAに変更。神戸市と宝塚市の2箇所でしか確認されていない希産種である。模式産地であるたつの市新宮町では、多くの研究者らによる度重なる調査においても再確認されておらず、一時はピルスブリムシオイの同種異名とされたこともあった。模式標本を再検討した結果、ピルスブリムシオイとは別種であることが判明したものの、種の扱いについては検討の余地がある。2003年版では、後述のミヤマムシオイ(貝類Aランク)と混同されていた。

### 保護上の留意点

今後新たな産地が報告されたとしても、そう多くないと考えられ、生息環境に特徴的な面がなく方策は施しにくいので、既知産地を現状維持するよう努める。



【執筆者】 増田修